

1976.8.1熊谷市報掲載【秋元永三さん作熊惑紹介】



四十でまどわず

ラグビークラブを結成

石原 秋元永三

ラグビー競技の魅力は、その果敢なタックルに尽きるといわれています。スポーツの中でもっとも体力のいる激しいラグビーは、若者だけが味わいうる世界だと思われがちですが、そうではありませぬ。としをとったわたしたちには、昔の「トライ」の魅力を忘れることができません。

そこで百メートルも満足に走れない中年太りの仲間たちを集めて今年五月「熊惑クラブ」を結成しました。会員は熊谷市在住、在勤者を中心に遠くは川口・大宮・川越の会員約三十人の男達が、毎週日曜日朝の九時から荒川運動公園グラウンドで練習をします。

年齢では六十三歳の鎌田氏、六十二歳の山本先生(山本外科院長)を中心に平均年齢四十四歳、赤と白の派手なジャージを着て、一つ

のボールに玉のような汗を流し、こんなにも酸素が必要なのかと思われるほど大口をあけて呼吸しながら、お互いの青春をたしかめあっています。

東京の不惑クラブ、大阪惑惑クラブや東は札幌、西は福岡まで、全国各地に「惑」の字のついた同好グループが現在活躍しております。わが熊惑クラブは、まだ小さなグループですが近い将来かならず大きくなることを期待しております。

ただいま、十月に計画されている群馬不惑クラブとの親善試合を目標にして、トレーニングをしています。その先にあるのは、強敵東京不惑クラブへの挑戦です。朝の練習に汗を流す会員

